【日本留学レポート】

言語の力は無限大

-日本語習得からの経験-

Experience from Acquisition of Japanese Language

一橋大学大学院社会学研究科　マービン・アン・ケット・シオン

Marvin Ang Ket Siong

(Graduate school of Social Sciences, Hitotsubashi University)

キーワード：ブルネイ、言語習得、日本留学、日本体験

はじめに

私の出身地であるブルネイという国について知っている日本人は、残念ながら決して多くはないでしょう。しかし、もっと驚いたことには、ブルネイの近くにある国の人たちにも、ブルネイのことはほとんど知られていないのです。では、ブルネイはどこにあるでしょうか。

この地図が示す通り、ブルネイはボルネオ島にある小さな国です。人口は 40 万人と少ないですが、とても穏やかで自然豊かな国です。ブルネイはイスラム国家であり、マレーシアやインドネシアと同じ多民族多文化の国です。

さて、本レポートではブルネイからの留学生である私自身の経験を踏まえ、来日してからの４年間で私が抱えた日本語についての悩みと解決手段を例として、日本の留学生活で直面する課題について私の考えを書かせていただきます。私の経験は読者の皆さんの経験と全く違うかもしれませんが、今

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

後私と同じように日本への留学を考えている方や、日本から外国に留学することに興味を持つ方にとって、少しでも参考になれば嬉しく思います。

誰にとっても、海外留学を決断するのは簡単なことではないでしょう。未知の国では、日常生活、食文化、習慣、使用言語、常識などが自分の国のものとは真逆である場合もあります。実際に、これらの違いに耐えられずに残念ながら留学を途中で諦めて帰国してしまう留学生が、私の周りでもいました。

私は 2015 年 4 月に文部科学省の奨学金でブルネイから来日して、現在、一橋大学大学院社会学研究科で勉強を継続中です。当時、東京で留学しているブルネイ人は私 1 人しかいませんでした。日本は私にとって初めての留学先であり、研究生期間と修士課程を合わせて 2～4 年間日本に住む必要があることに最初は不安を感じました。しかも、日本についてはテレビやインターネット記事の情報しか知らない私にとって、日本に到着後何をするべきか五里霧中の状態でした。幸い私は文部科学省の奨学金を得た上でアスジャ・インターナショナルに所属となり、アスジャ国費留学生となりました。最初の半年間は JASSO 東京日本語教育センターで日本語の予備教育を受ける必要があったことで、最初の半年間のことは一安心でした。東京日本語教育センターでは丁寧に様々な在留の手続きをしていただいて、今でも感謝しています。

私は幼いころから日本文化が好きで、来日前から日本語を熱心に勉強していました。ブルネイの日本語教育はあまり盛んではなく、大学で受けられる日本語教育は初心者レベルしかありません。日本に住むことは私の長年の夢であったために、私は独学で日本語を学び、来日直前に日本語能力試験 2 級まで取ることができました。

日本にいるうちに日本語を覚えたい！

日本語は日本以外ではめったに使われない、ユニークな言語です。日本語ネイティブではない私たち留学生が最初に乗り越える必要のある大きな壁は、言語だと思います。日本語を勉強して日本で何年も過ごしてきた外国人でも、ネイティブの日本人たちの日本語を完璧に理解できるまでには、かなりの時間と努力が必要だと言われます。しかし、日本での日常生活では日本語の使用は絶対に欠かすことができません。日本で充実した生活を送るためには、まず日本語でのコミュニケーションを上達することが必須だと思いました。

半年間の日本語予備教育を受けた後、自分の日本語能力は以前よりもっと上達したと感じて、私は自信満々で大学に進学しました。しかし、一橋大学での修士課程は日本語コースで、指導教官のゼミに参加して、その自信は崩れ去りました。当時同じゼミに所属していた 10 人の学生の内 3 人が留学生でしたが、私以外の 2 人は日本語がペラペラの韓国人でした。大学で使用しているアカデミックな日本語は遥かに高い壁で、その頃の私はゼミの内容をまったく理解できず、さらに他の学生は自分より

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

優秀だと感じたので、とてもプレッシャーでした。今まで何年間も頑張って勉強した日本語は何だったのかと疑問に感じました。もう辞めよう、英語コースがある他の大学に逃げようと、一瞬考えました。

しかし、私は自分にこう言い聞かせました。「英語で勉強したいなら、ブルネイと近い教育システムのイギリスやオーストラリアに留学すればいいではないか。なぜ自分はわざわざ日本を選んだのか。せっかく日本に来られて、これ以上に日本語を上達させる恵まれた環境はないのでは。たとえどんなに苦労しても日本語で勉強した方が将来役に立つだろう。」

今振り返ってみると、日本語コースに挑戦したことは本当に良かったと思います。最初のころは授業やゼミの内容も理解できませんでしたが、講義やゼミの議論を録音して、夜に部屋で再生して内容を理解できるように必死に勉強しました。私はだんだん議論の会話に慣れてきて、現在では議論にも参加できるようになり、今では発表もすべて日本語で行っています。

それでも、私の日本語能力はまだまだ勉強不足だと思います。ですが、この 4 年間頑張った結果として、今こうして読者の皆さんに私の文章を読んでいただけるまでになりました。4 年の間にはすごく苦しくて、心が折れそうになるときもありました。けれど、一所懸命日本語を上達するプロセスの中で様々な素敵な出会いと出来事があり、そのおかげで乗り越えることができました。

情熱と勇気＝日本語のレベルアップ

日本に来る前に、私はブルネイで小学校の英語教師として勤めていました。その経験から、私にとって言語を学ぶときに最も重要なことは、継続的に実践することです。特にスピーキングに関しては発音や状況によって会話の仕方が異なり、イントネーションが変わる場合もあります。それでも口頭コミュニケーションでは、日本語が完璧でなくても身振り手振りを交えながら会話が進められる時もあります。つまり、完璧な日本語が話せないことを恐れたり、恥じたりしない方が良いと考えます。私の勝手な想像かもしれませんが、外国人が最初から上手に話せるなんて、ネイティブの人たちは期待していないと思います。幸い私が今まで出会った日本人の皆さんや、同じく日本語を勉強している外国人留学生は、いつも優しくフォローしてくれます。

言語習得の近道はないと思います。私にとっての言語習得への道は、日々の練習を怠らず、繰り返し試行錯誤を重ねるプロセスです。

私の場合は読み書きより話すことと聞くことの方が得意です。私はブルネイ生まれの中華系民族ですが、中国語を勉強したことはありません。したがって、中華系なら漢字が読み書きできるだろうというステレオタイプは私には通じません。現在でも日本語で書いている研究論文を読む時は非常に時間が掛かりますし、読めない漢字を辞書で探す作業には何時間でも必要です。

私は日本のバラエティーや、ドラマ、アニメといったテレビ番組が好きで、今まで様々な作品を見

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ました。日本語は時と場合によって丁寧語、尊敬語、謙譲語など、様々な言葉遣いを使い分けるのでとても複雑だと思います。私はこうした番組の登場人物の言葉遣いを観察して、作品の中で使われる単語や言葉遣いを覚えて実践で練習します。時に適切ではない言葉を間違って使ってしまいますが、幸い私の周りの皆さんは親切に私に教えてくれました。この学習方法のもう一つの利点は単語です。日本語学習の教科書に出てくる単語は日本語の語彙のうちのわずかでしかないので、他のリソースから様々なジャンルの単語を拾うしかありません。私の場合はテレビ番組から学んだ単語のおかげで、会話する時には日本語を完璧に理解できなくても、単語と言葉遣いからその人が伝えたいことをほぼ間違えずに理解できるようになりました。この方法で私は現在、学校などで勉強したことのない韓国語も少し話せますし、簡単な会話であれば何とかわかるようになりました。

日本語から友情が生まれる

日本語を上達させるためのもう一つのモチベーションは、日本人の友達を作ることです。私は読み書きより話すことと聞くことを重視し､日本語能力を上げるために日々練習していた理由があります。それは、私は人と話すことが大好きで、人との会話をいつもすごく楽しみにしていることです。

現在私はたくさんの友達に恵まれています。それはすべて、東京日本語教育センターの寮で過ごしたり、アスジャ・インターナショナルのアクティビティに参加したおかげです。例えば、日本人でもなかなか訪問できない日本の小学校に行って日本の小学生たちと交流したり、あるいは、地方に皆と一緒に出かけて、その地域の産業や文化を体験したり、または後述するホームステイ事業、そして同世代の日本人大学生と 3 泊 4 日の英語合宿をするワークショップなど様々な事業で、自分の日本語を上達させる機会が与えられました。それだけでなく、様々な世代や文化の人々と出会う機会も与えられました。

当時、東京に留学する唯一のブルネイ人であった私には、友達や頼れる同国の人が身近にいませんでした。一緒に東京日本語教育センターの寮に住む皆さんには、同国の人たちがいて本当にうらやましく思いました。幸い私たちは異なる国から来ていても同じ目標を持つ仲間でした。それは、日本語を学んで大学に進学することです。現在親友と呼べる友達は殆どが東京日本語教育センターで一緒に過ごした仲間です。私たちは英語という共通語を持っているとしても、会うたびに日本語でできるだけ話し合っています。

現在彼らはそれぞれの大学に進学して、大学を卒業して日本にある会社に勤め始め、あまり会える機会がありませんが、時間がある時はいつも東京周辺に集合して、一緒に遊びに出かけます。お互いが背負っている悩みを話して、一緒に解決します。この親友たちがいたからこそ、今まで 4 年間の孤独と辛さを乗り越えることができたと思います。

一方、日本人の友達ができるまでにはかなり時間がかかりました。正直、最初の 1 年間は友達と呼

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

べる日本人は１人もいませんでした。読者の皆さんはそれぞれご自身の「友達」の定義があると思いますが、私の場合は一緒に出かけて、日本社会で言われている「建前」を超えて「本音」のままに一緒に時間を過ごせる人たちが友達です。

私はたくさんの素晴らしい出会いをして日本人と仲良くなるつもりでした。それでも、私の限られた日本語能力では、避けられない繰り返しの表面的な会話が続くばかりでした。そこで、もっと自分の会話を広げるために日本のニュース、日本社会の常識、流行の情報、日本語の歌などを大学の勉強以外にも必死に勉強しました。結果的に日本人の皆さんと話せるトピックも増え、以前より快適に話せるようになって、だんだん皆さんとありのままの本音で話すようになりました。現在友達を超えて親友とまで呼べる日本人の友達が何人もいます。その親友たちは現在ほぼ全員が大学を卒業して、社会人になって忙しい生活の間でも、しょっちゅう連絡をくれます。2～3 か月に 1 度の割合で一緒に出掛けます。

日本語と周りの社会

大学院進学後は国立市に住みました。自分の日本語能力の自信をつけて成長するために、私は国立市にある NPO 団体を訪ねて、国立市で行われる様々なイベントに参加しました。国立市は一橋大学があり、外国人は山ほどいます。しかし、ブルネイ人が国立市に住むのは初めてかもしれないと、ある NPO 団体の会員の高齢者の一人が私に言いました。その団体のおかげで様々な地元の文化や人々に触れることが出来ました。

この NPO 団体を通して、私は国立市にある様々な小学校、中学校、高校を訪ねる機会があり、ブルネイのことを多くの人たちに紹介できました。おかげで自分の日本語でのプレゼンテーションの自信がつきました。

日本に来て一番幸せを感じたことは、日本にお父さん、お母さんと呼べる日本人の家族ができたことです。日本のドラマを見て、日本人として日常生活を送るのはどんな感じかと考えていました。来日して１年目にアスジャのホームステイ事業で、初めて栃木県小山市にある日本人の家に泊まることになりました。お父さんとお母さんは日本語以外話せないため、自分が頑張らないといけないと思って、必死に身振り手振りを交えながら様々な会話をしました。2 人は私を息子のように受け入れてくれて本当に嬉しいです。彼らの友達に私を紹介する時にも、ブルネイの息子といつも紹介してくれます。最近だんだん忙しくなって、小山に帰る時間がありませんが、昨年まで毎月「実家帰り」のように小山に行っていました。おかげで、お父さんとお母さんから日本人の家族の過ごし方も体験させてもらい、日本語で様々な悩みや日本社会について話し合って、日本人との会話の自信をつけました。実は私は、今まで自分の実の両親にあまり親孝行したことがないと、小山の両親と過ごした日々で気が付きました。それ以来、毎回ブルネイに帰国する時は、毎日母に親孝行するようになりました。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

最後に：「If there is a will, there is a way（意志あるところに道はひらける）」

母国にいる親しい人たちから離れて、他国に留学するのは決して簡単なことではありません。皆さんは一人ひとりそれぞれの理由と事情で留学すると思いますが、充実した留学生活を送りたいという願いは誰でも同じだと思います。

日本で過ごしたこの 4 年間には数え切れないほどの悩みや困難の壁にぶつかった時期があって、心が折れそう、諦めたいと思ったことが何回もありました。しかし、今振り返ってみると、様々な素敵な出来事や出会いがあって、そのおかげで自分が大きく成長したと思います。

私がこの留学の経験から学んだのは、自分自身を深く理解し、自分のペースをつかんで適切な練習方法を身に付けて、自分が進むべき道を自分の手で切り開く必要があるということです。

もちろん、皆さん一人ひとりの事情と得られる経験は、その人によって異なります。以上はあくまでも私自身の個人的な事情で、私の背景と性格を踏まえて考えた解決方法です。

しかし、事情や背景、性格が違っても、重要なことは諦めない強い意志と信念を持つことだと、私自身は考えています。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.